

初任保育者の職務の理解と習得に関する一考察

— 年度後半期を中心に —

矢野 光恵^a, 橋本 信子^aA Study on the Understanding and Acquisition of Duties of Beginning Child Care Workers:
Focusing on the Second Half of the YearMitsue YANO^a, Nobuko HASHIMOTO^a

要 旨

本研究は、早期離職を防ぐために、初任保育者の支援方法に示唆を得ようとするもので、初任保育者が理解・習得する職務の実情を明らかにし、その間の心境を把握することを目的としている。

前半期を対象とする調査はすでに発表しており、本研究は後半期を研究対象期間として、後半期で理解・習得する職務内容にはどんなことがあるのか、いつ、どのように理解・習得しているのかを明らかにし、後半期の月毎の心境を捉えた。9月、10月は理解・習得することや初めて任される職務が増えていた。また、年度末の3月には新年度の準備が始まり、新たな負荷がかかる実情が明らかになった。月毎に新たな職務内容に直面する状況が続く中で、同僚との良好な関係性や同僚からの承認が気持ちの安定と自信をもたらしていること、保護者からの承認や成長した子どもの姿が保育の面白さや楽しさの実感をもたらしている実態を確認できた。

キーワード：初任保育者、保育職の職務内容、職場適応、同僚性、早期離職

I. 目的

1. 問題の所在

拡大し続ける保育ニーズに対して、保育者の確保が喫緊の課題となって久しい。全国の指定保育士養成施設の定員充足率は低下しており、2016年度では80.9%だった充足率は、2020年度には75.7%（定員57,985

名、入学者43,890名）になり、4000人近く減少している。保育職への志望者が減少する状況において、確保できた保育者が無理なく職場に定着する方途の開発は急務であり、保育現場のためにも保育者養成校のためにも真剣に取り組むべき課題であると考えられる。

保育者養成協議会（2009）の大規模調査は、保育士養成校を卒業して保育職に就いた者のうち4分の1が2年足らずで退職していることを報告している。保育者養成校卒業後の離職に関して、岡本ら（2010）は卒業後2年目までに15.7%（38名/242名）が離職していることを明らかにし¹⁾、上田・松本（2015）は、同じく2年間で27.3%が離職していたことを報告している²⁾。一般的な早期離職の定義では、就労後3年間という期間が定められているが、前述の研究からは、卒業後2年間で20%前後が離職している実態が見えてくる。「保育の現場、職業の魅力向上検討会」での資料「保育士の現状と主な取組」³⁾では、保育士の離職率は9.3%（公営5.9%。私営10.7%）と報告されていることを考えると、卒業後2年間の離職率の高さは看過できない状況であることが推察される。

横山ら（2016）の研究は、初年度の離職率は15.4%で、2年目は11.1%であったことを明らかにしており⁴⁾、特に初任保育者に対する配慮の必要性を指摘している。早期離職にはそれぞれの事情があると思われるが、木曾（2018）は、保育者を対象とした9つの研究における早期離職の要因を集計し、「職場の人間関係の問題」（8）、「心身の不調」（8）、「園の方針との不一致」（5）、「仕事量の多さ」（5）が共通して挙がることを分析している⁵⁾。

筆者ら（2023）は、保育者の早期離職問題に対して何らかの手立てが必要と考え、初任保育者が理解・習得する職務の実情に注目してその内実を把握する調査を行っている。初年度前半期に理解・習得する保育職の職務内容のうち、7月末までに理解・習得した職務内容の約8割を4月末の時点で理解・習得しているこ

^a安田女子短期大学保育科

とを明らかにして⁶⁾、初年度前半期の「仕事量の多さ」の実情を報告している。

2. 本研究の目的

早期離職問題に対する研究結果を踏まえて、本研究は、初任保育者の早期離職を防止する手立てを構築する目的で、就労初年度後半期の初任保育者が理解・習得する職務の実情に注目してその内実を把握しようとするものである。初年度前半期を調査期間とした研究はすでに発表しており⁷⁾、本研究はその後編に当たる。本研究では、初年度8月から翌年3月末までを調査対象とし、就職して理解・習得する具体的職務内容にはどんなことがあるのか、いつ、どのような方法で理解・習得したかを明らかにしていく。また、その時の心境を手掛かりに初任保育者の実情を捉え、初年度支援の手掛かりを得たいと考える。

II. 方法

1. 調査対象及び調査手続き

広島県内に勤務する保育士2名（いずれも2021年3月に保育者養成校を卒業し、2021年4月1日より勤務している保育士）を対象に調査を行った。

本調査の実施に当たっては、倫理的配慮として、事前に調査の目的・意義・方法・調査項目を開示して個別に説明した。また、参加を辞退・撤回する権利を有すること、研究への参加に同意しない、あるいは参加の撤回により不利益を受けないことも加えて説明して、理解と同意を得た。調査用紙への記載事項及び集計結果は本研究の目的以外には使用しないことや、研究結果は保育所名や個人名が特定されない形で公表する旨を調査用紙に記載した。提供されたデータは厳重に管理し、必要な保管期間が経過した後、速やかに廃棄することを伝え、調査用紙の提出をもって同意と見なした。

2. 調査期間

2021年8月1日から2022年3月末までを調査対象時期とし、2022年4月1日から5月5日を回答期間とした。

3. 調査内容と分析の方法

小澤他（2017）は、新任保育者が「行うべきこと」、先輩保育者が「教えるべきこと」を確かにすることが新任保育者の適応支援に繋がると考え、宮崎県幼稚園連合会と連携して「新任保育者指導／支援チェックシート」を開発している⁸⁾。このチェックシートは幼稚園連合会に加盟している幼保連携型認定こども園でも

使用できるシートであることから本研究で使用することが可能と判断し、宮崎県幼稚園連合会に研究使用への了解を得た。

本研究では、当該チェックシート9・10月版と2・3月版を参考に調査項目を編成した。調査項目は76項目、それぞれの理解・習得の方法と時期に心境を記載する質問項目を加えて本研究の調査用紙とした。調査対象は、1歳児を担当している保育士Aと0・1歳児を担当している保育士B（以降、保育者A・保育者Bと記す）で、調査項目の理解・習得方法と時期の現状を把握・考察し、自由記述から具体的な内実を補完した。

III. 結果と考察

1. 職務内容を理解・習得した時期と方法

1) 保育者A・Bの職務内容を理解・習得した時期の結果と考察

保育者A・Bの職務内容を理解・習得した時期と各月の件数結果は表1のとおりである。

表1 職務の理解・習得時期と項目数（項目）

時期	保育者 A		保育者 B	
前年度 3 月	0	前年度 3 月～7 月 計 9	1	前年度 3 月～7 月 計 10
4 月	8		2	
5 月	0		2	
6 月	1		4	
7 月	0	8 月～12 月 計 26	1	8 月～12 月 計 24
8 月	0		2	
9 月	11		9	
10 月	11		4	
11 月	4	1 月～3 月 計 17	6	1 月～3 月 計 19
12 月	0		3	
1 月	3		4	
2 月	4	未習得	2	合計
3 月	10		13	
未習得	24	計 52	23	計 53
合計	76		76	

調査した76項目のうち、保育者Aは52項目を、保育者Bは53項目を1年間で理解・習得しており、2年目に理解・習得することが持ち越された項目が、20項目を越えることがわかった。後半期には、1年間で理解・習得した職務内容のおよそ半分を9月から12月に理解・習得しており、特に保育者Aは、9月・10月・3月に理解・習得したことが集中していた。

職務内容を理解・習得した時期の結果は、図1・2

に示した。9月、10月はお月見、敬老の日、勤労感謝の日、運動会、作品展などの園行事が開催される時期であり、3月は年度末と新年度の準備の時期である。こうした取り組みの中で理解・習得する職務内容が増えている状況が理解できた。

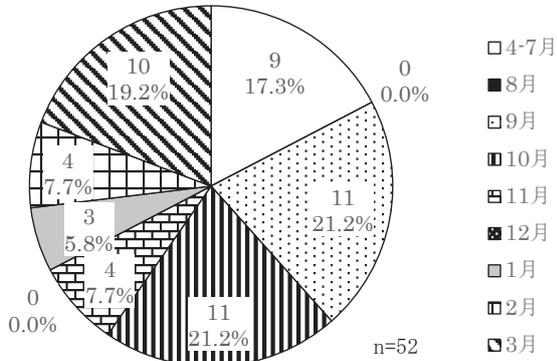


図1 職務内容の理解・習得時期と項目数 (保育者A)

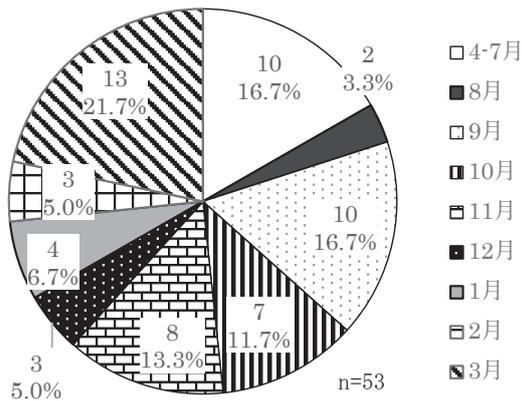


図2 職務内容の理解・習得時期と項目数 (保育者B)

2) 保育者A・Bの職務内容の理解・習得する方法の結果と考察

職務内容の理解・習得方法の結果を図3・4に示した。保育者A・Bの理解・習得方法の結果から、職務のすべてを園から教えてもらっているわけではない実態が明らかになった。保育者Aは51.9%を、保育者Bは34.0%を、自分から質問し、場合によっては見て理解していた。

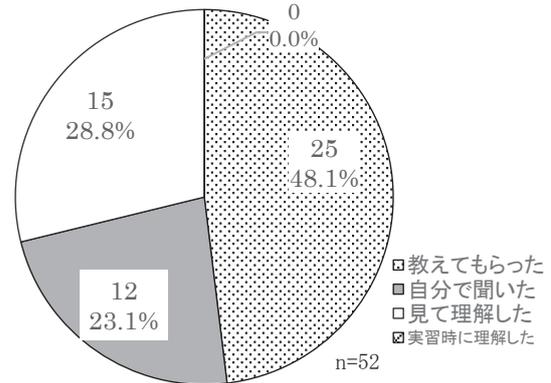


図3 職務内容の理解・習得方法と項目数 (保育者A)

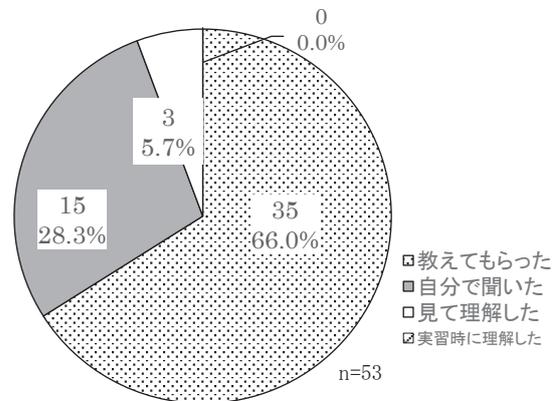


図4 職務内容の理解・習得方法と項目数 (保育者B)

2. 自由記述にみる保育者A・Bの心境

保育者A、Bの自由記述には、行事とそれにまつわるエピソードが数多く記されていた。

表2は各月の自由記述の冒頭部分に見られる行事に関する記述である。保育者Aは「(9月は)もともと以上児運動会の予定だったので…」 「(10月は)初めての行事担当で公民館主催のうんどろあそびを… (略) いもほり、総合避難訓練、と行事が盛りだくさんで…」と自由記述の書き出しが行事で始まっていた。保育者Bも同様に「9月は誕生日会の担当であり…」 「10月末にアート展があり…」と冒頭から述べており、両者にとって行事が大きな関心事であることが推察された。

表2 各月の自由記述冒頭文章から見られる行事に関する記述 (全て文章冒頭)

保育者 A	保育者 B
(9月) もともと以上児運動会の予定だったのでそれに向けて園全体で！という感じで1年間の中で1番あっという間に感じた1か月だったかなと思います。… (略) …	8月上旬は夏祭りがあり、その準備や、開催で不安になったり、計画不足で思わず、… (略) …
(10月) 初めての行事担当で公民館主催のうんどうあそびを計画したり以上児運動会でプログラム係 (うちの保育園では毎年1年目が通る道らしいです) & 準備係、なぜかかっぱ係 (笑) といもほり、総合避難訓練、と行事が盛りだくさんでとにかく忙しい1か月でした。特に未満児運動会ではリーダーをとったけれど… (略)	9月は誕生日会の担当であり、また新型コロナウイルスの影響で、8月・9月合同の誕生日会となったため… (略) …
(12月) お楽しみ会 (クリスマス会) を楽しみにする子ども達を微笑ましく見守りながら、年末ということで大掃除をしたり1年間を振り返りながら過ごしました。… (略)	10月末にアート展があり、その行事の準備の大変さを感じた。… (略) …
	(11月) 乳児の参観日が初めてあり、そこに向けてどのようなことをするのか… (略) …
	(1月) とんど祭りに参加し、とんどの由来や日本の伝統行事について知ることが出来た… (略) …

8月から3月の自由記述にみられる語彙の出現回数や語彙の関連性について計量テキスト分析ソフトのフリーウェア KHCorder を使い、対象のテキスト内における語の抽出や語の出現の仕方が似通っている語を線で結んで表示する「共起ネットワーク」(最小出現回数を3、絞り込みの描画数60) による分析を行った。

1) 保育者A・Bの自由記述の分析結果

保育者Aの共起ネットワークからは、四つのまとまりがみられた。行事に関連すること、日々の保育や同僚に関連すること、保護者に関連すること、子どもや保育における楽しみに関連することであった (図5)。

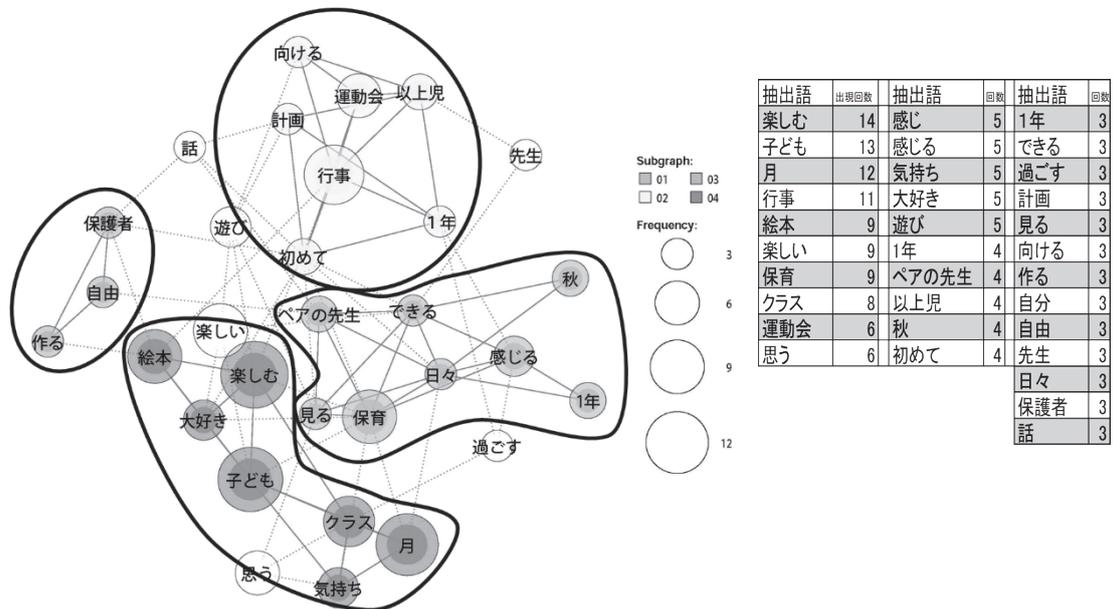


図5 保育者Aの自由記述分析

保育者Bの共起ネットワークからは、同僚の先生との関わりを含む行事に関連すること、日々の保育に

関連すること、保護者に関連すること等、六つのまとまりがみられた (図6)。

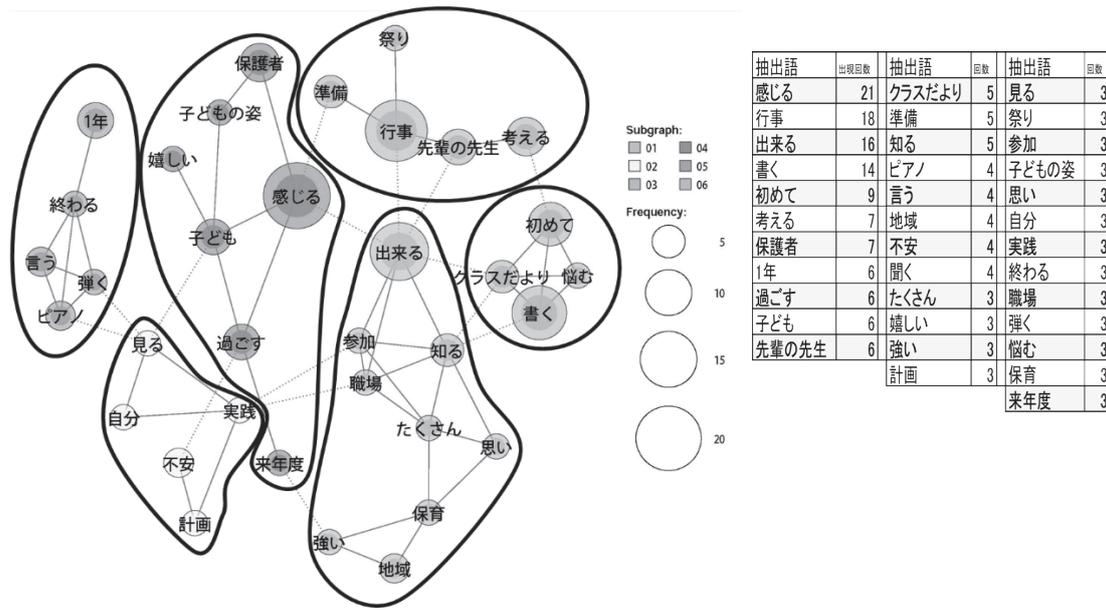


図6 保育者Bの自由記述分析

2) 保育者A・Bの自由記述の考察

結果に示した共起ネットワークから得られた結果を踏まえて、再度自由記述を精査したところ、保育者A・Bに共通する五つの視点を得ることができた。以下、視点別に具体的なエピソードを記載していく。

①仕事を任されることによる成長

一つ目は、“仕事を任されることによる成長”に関連することである(表3)。9月以降は行事が増え、それに関連する仕事を覚えるだけでなく、“任される”という形での職務への関わりが生じていた。自分がその行事を初めて計画し、実践する、つまり“任される”ことで気付くことや感じることもあるだけに、任される

ことは、初任者にとって職員集団に仲間入りできた実感を引き出すのだろう。

一方、一つの行事が終わらないうちに、次の行事の準備が始まり、またその次に迎える行事の準備が始まる。そうした中で、“任される”が増えてくことに高揚感を感じているようでもあった。しかし、単に行事と言っても、それらは同じ行事ではないので、当然、初めての行事に対する役割を毎回、任うことになる。初任者がそうした役割を果たすかどうかを見極めて、できることが確認できれば、先輩保育者が一手に引き受けていた行事以外の仕事、例えばクラスだよりなどの職務内容を少しずつ任されるようになることもわかった。

表3 “仕事を任されることによる成長”に関する記述

行事にまつわる“初めて任される”仕事
初めての行事担当で公民館主催のうんどうあそびを計画したり以上児運動会でプログラム係(うちの保育園では毎年1年目を通る道らしいです)&準備係、なぜかかっぱ係(笑)ともほり、総合避難訓練、と行事が盛りだくさんでとにかく忙しい1か月でした。特に未満児運動会ではリーダーをしたけれど1学期の参観&懇談はコロナで中止になったので実際に保護者の前で話をするのが初めてで緊張しました。(保育者A)
月上旬は夏祭りがあり、その準備や、開催で不安になったり、計画不足で思わず、涙が出ることもあったりしたが、周りの先生方が助けてくださったり、温かい声を掛けてくださったりしたことで、心が救われたように感じた。また、こんな思いはしたくないと、自分なりに、夏祭りについての資料を作るきっかけもなった。就職してから、自らが計画して実践していくことが初めてであったため、不安も大きかったが、実践したからこそその気づきがあり、考えたり、感じたりすることも、いっぱいあったように思える。また、自分が考えたことに対して、子どもたちが喜ぶ姿が見られたことにも、嬉しさを感じた。(保育者B)
行事毎に毎回“初めて任される”仕事が増えてくる
10月末にアート展があり、その行事の準備の大変さを感じた。職員会議でどのようなものをするのがよいのか、乳児で考えたときに、「何かある?」と聞かれ、OPP テープ(梱包テープ)で作るシールを提案し、それをきっかけにシールコーナーを任せていただくことになった。…略…準備にも時間が掛かったが、当日は自分なりのシールが作れるということに保護者やグループ関係者の方も驚いてくださり、やりたいことが実践できてよかったと感じた。…略…(保育者B)
行事以外の“初めて任される”仕事も増えてくる
(12月)初めて、クラスだよりの一部を書くことになり、どう書いていいものかわからなかったが、…略…一緒に組んでいる先輩の先生が、悩みながらも書くことが出来、配信することが出来た。…略…(保育者B)
3月号分はコラムを含めて、丸々1枚書かせていただくことになった。初めてのコラム欄に、何を書いていいのか、…略…(保育者B)

②同僚との良好な関係性と承認

二つ目は、同僚との関係性、同僚からの承認である(表4)。保育者Aの自由記述からは、同じクラスを担当する“ペアの先生”との協働の喜びが多くみられた他、他の同僚たちとの和やかな雰囲気、関係性も読み取れる部分もみられた。保育者Bの自由記述からは、

同じクラスを担当する“先輩の先生”が登場する記述が散見された。また、不安に思い、困難な事態に直面した時に、周りの保育者達からの温かい言葉や助けに救われたり、全体の場でアイデアを認められたり、仕事を任されたり、保育者Bも他の同僚たちとの関係性の良好さが記述から感じられた。

表4 “同僚との良好な関係性と承認”に関する記述

保育者 A の同僚との良好な関係性と承認
初めてのお散歩に出かけたり秋見つけをしたりしながら毎日の保育もとても楽しく子ども達の成長を日々感じながら「ペアの先生とエピソードを共有できる時間が大好き」でした。
園内研修が【絵本】をテーマにしていたこともあり「お家で楽しんでいる絵本について保護者の方に聞いてみたいね!」「みんなのおすすめを集めたら楽しそうじゃない?」と盛り上がり実際にアンケートをとってみることにしました。
お正月あそびや郵便ごっこを楽しむ中で、…略…試行錯誤しながらいろいろやってみるのがとても楽しかったです。ペアの先生が私の「やってみよう」を自由にやらせてくださって本当に自由でした!
(2月)来年もこの子ども達を持ちあがりで見たいなと思いながら、このクラスのまとめとして日々楽しみながらも、4月まででできるようにしておきたいところを「ペアの先生と再確認して」気持ちを同じに保育できたのでよかったです。
(3月)次のクラスが楽しみになるような保育や雰囲気を大切に1か月過ごしました。「〇〇組のオリジナル絵本を作りたいね!」とペアの先生と話をしていたこともあり…略…
保育者 B の同僚との良好な関係性と承認
8月上旬は夏祭りがあり、その準備や、開催で不安になったり、計画不足で思わず、涙が出ることもあったりしたが、周りの先生方が助けてくださったり、温かい声を掛けてくださったりしたことで、心が救われたように感じた。
9月は誕生日会の担当であり、また新型コロナウイルスの影響で、8月・9月合同の誕生日会となったため、8月の担当の先輩の先生に誕生日会はどうなるのかなど、誕生日会のことについて聞き、相談しながら「やまのおんがくか」をすることになった。司会は先輩の先生にいただいたが、劇では、子どもたちが楽しみながら、見てくれたり、「たんじょうび」のピアノをミスなく弾くことが出来、「ピアノ、弾けて良かったね」と一緒に誕生日会をしてくださった先輩の先生に言っていたいだりしたことから、無事に終わってよかったと安心することが出来た。
10月末にアート展があり、その行事の準備の大変さを感じた。職員会議でどのようなものをするのがよいのか、乳児で考えたときに、「何かある?」と聞かれ、OPP テープ(梱包テープ)で作るシールを提案し、それをきっかけにシールコーナーを任せていただくことになった。
乳児の参観日が初めてあり、そこに向けてどのようなことをするのか、一緒に組んでいる先輩の先生と考えた。…略…
初めて、クラスだよりの一部を書くことになり、どう書いていいものかわからなかったが、一緒に組んでいる先輩の先生が、書き方について教えてくださったり、考えた文章を丁寧に添削して下さったりしていただいたため、悩みながらも書くことが出来、配信することが出来た。

③保護者からの承認

三つ目は、保護者からの承認の体験である。保育者A・B共に、自分が関わった取り組みについて、肯定的な評価が得られたことが喜びにつながっていた(表5)。また、保育者Bの記述からは、行事では日常とは異なる時間の持ち方が保護者ととれるため、日ごろ

の連絡帳の記録内容について、直接保護者から承認の言葉をかけられた経験が励みとなり、大きな力になっていることがわかる。さらに、参観日で複数の保護者の前で話すこと、保護者の前で保育をすることの緊張を無事に乗り越えた経験は、保育者Bにとって大きな自信となったことが窺えた。

表5 “保護者からの承認”に関する記述

(11月)…略…園内研修が【絵本】をテーマにしていたこともあり「お家で楽しんでいる絵本について保護者の方に聞いてみたいね!」「みんなのおすすめを集めたら楽しそうじゃない?」と盛り上がり実際にアンケートをとってみることにしました。各家庭のおすすめ絵本を全部集めて子ども達が自由に楽しめるようにして、エピソードやおすすめポイントと合わせて情報提供を作って掲示すると保護者の方からとても好評で大変だったけど楽しかったし作ってよかった!と、なにより先生方から驚かれるほどとても読書家な子ども達になりました(笑)。(保育者A)
(10月アート展)当日は自分なりのシールが作れるということに保護者やグループ関係者の方も驚いてくださり、やりたいことが実践できてよかったと感じた。また、アート展で、クラスの保護者の方から、先生の連絡ノートから、子どもの姿が想像できます。1年目ののにすごいなと思っています。と言われ、嬉しさを感じることも出来たとともに、保護者の方から直接言うてくださったお陰で、「頑張ろう」という気持ちにもなれた。(保育者B)
(11月)乳児の参観日…略…一対一で保護者の方と話すことはあったものの、数人の保護者の前で話すことは初めてであったことから、その緊張と…略…保護者の前でピアノを弾くことが初めてであったため、その緊張も感じていた。しかし、保護者と一緒に過ごす、子どもの姿は保育園で過ごす顔と違うように見え、子どもたちの新たな1面を知れたようにも感じた。(保育者B)

④子ども理解や保育の面白さ・楽しさの実感

四つ目は、子どもの姿が見えてきたり、保育の面白さ・楽しさが感じられたりしたことに関する記述である(表6)。保育者Aの記述からは、子どもの成長を微笑ましく見守ったり、子どもと一緒に楽しむ経験や

成長を感じたり、“クラスらしさ”を感じたりし、楽しみながら保育に向き合っている様子が読み取れた。保育者Bも、子どもの姿がみえ、成長を感じる喜びの記述がみられた。

表6 “子ども理解や保育の面白さ・楽しさの実感”に関する記述

(9月)特に行事も以上児の運動会くらいしかなくて子ども達は特に関係ない1歳児の私のクラスでは大好きな絵本「おつきさまこんばんは」が大ブームになって「せっかくなら思いっきり楽しませてあげたい!!」と色々な遊びや制作を計画して楽しみました。後半は10月の未満児運動会に向けているんな遊びを楽しみながらどれがいいかなあと考えていくのが楽しかったです。(保育者A)
(10月)初めてのお散歩に出かけたり秋見つけをしたりしながら毎日の保育もとっても楽しくて子ども達の成長を日々感じながら先生の先生とエピソードを共有できる時間が大好きでした。「就職して半年…。ここまでほんとに長かった……。って印象です(笑)。(保育者A)
11月に引き続きいろんな絵本も楽しみつつ、お楽しみ会(クリスマス会)を楽しみにする子ども達を微笑ましく見守りながら、年末の大掃除をしたり1年間を振り返りながら過ごしました。(保育者A)
(3月)次のクラスが楽しみになるような保育や雰囲気大切に1か月過ごしました。「〇〇組のオリジナル絵本を作りたいね!」とペアの先生と話をしていたこともあり「おべんとうバス」の絵本を「〇〇ぐみバス」にアレンジして楽しみました。子ども達が何度も何度も読んでくれる一冊になり、「うちのクラスらしいなあ。」と思いながら最後までとても楽しんで担任をさせてもらうことができました。(保育者A)
(8月夏祭り)就職してから、自らが計画して実践していくことが初めてであったため、不安も大きかったが、実践したからその気づきがあり、考えたり、感じたりすることも、いっぱいあったように思える。自分が考えたことに対して、子どもたちが喜ぶ姿が見られたことにも、嬉しさを感じた。(保育者B)
(11月参観日)保護者と一緒に過ごす子どもの姿は保育園で過ごす顔と違ふように見え、子どもたちの新たな一面を知れたようにも感じた。(保育者B)
(2月)0歳児として過ごす時期も残り2か月となり、振り返りをすることも増え、子どもたちの成長の速さを感じた。(保育者B)
(3月)この1年間、0歳児の子どもたちの成長をそばで見守ることが出来、よかったと感じたり、嬉しさを感じる事が出来たり、充実した1年間だったように思える。(保育者B)

⑤3月(年度末)にかかる新しい取り組みと負荷

五つ目は、3月(年度末)にかかる新しい取り組みと負荷である(表7)。先に、1月から3月においては、3月の1か月に理解・習得する量が比較的多いと述べたが、その内容についても注目すべき点があった。

保育者A・B共、3月に理解・習得する職務内容は、

新年度に向けた準備が含まれることである。つまり、日々の保育の業務から純増した仕事量であること、それらは全て初めての仕事であることから、相当な負荷がかかっていることが推察された。さらに、新年度の担当が現在のクラスの持ち上がりでない限り、子どもの把握から始めなければならない。業務内容だけ引き継いでも、具体的な準備が進まないことも窺えた。

表7 “3月(年度末)にかかる新しい取り組みと負荷”に関する記述

別れの季節の3月は大好きな先生や子ども達と離れるという事で毎年こんな気持ちになるのか。と寂しかったですが、春休みのない保育園にとって日々の保育に加え新年度準備の忙しさをとても感じながら勤務した1か月で保育士1年目の1年間の勤務を終えて感慨深かったです。(保育者A)
また、来年度の担任発表を聞き、来年度への不安を感じたり、0歳児の子どもたちと過ごすことが少なくなるのだと思うと、寂しさも強く感じたりした。特に3月の後半は、来年度の準備が多く、初めて経験することに対してわからないまま準備をしたり、初めての週案や月案を書き、クラスだよりも書いたり、作成する書類も多く、追われるように過ごしていたように感じる。
また、クラスの引継ぎが行われたものの、園児の名前と顔が一致していないため、顔に中々入ってこず、ただただ、不安を抱えながら日々を過ごしていたように思う。(保育者B)

初任保育者にとって、9月、10月は理解・習得することが増えており、初任保育者が初めて任される仕事が増えていた。月毎に新たな職務内容に直面する中で、同僚との関係性、同僚からの承認が安定と自信をもたらし、保護者からの承認の実感や子どもの姿、保

育の面白さや楽しみの実感が支えになっていることがわかった。また、年度末の3月には新しい取組が始まる分、新たな負荷がかかることも明確になった(図7)。

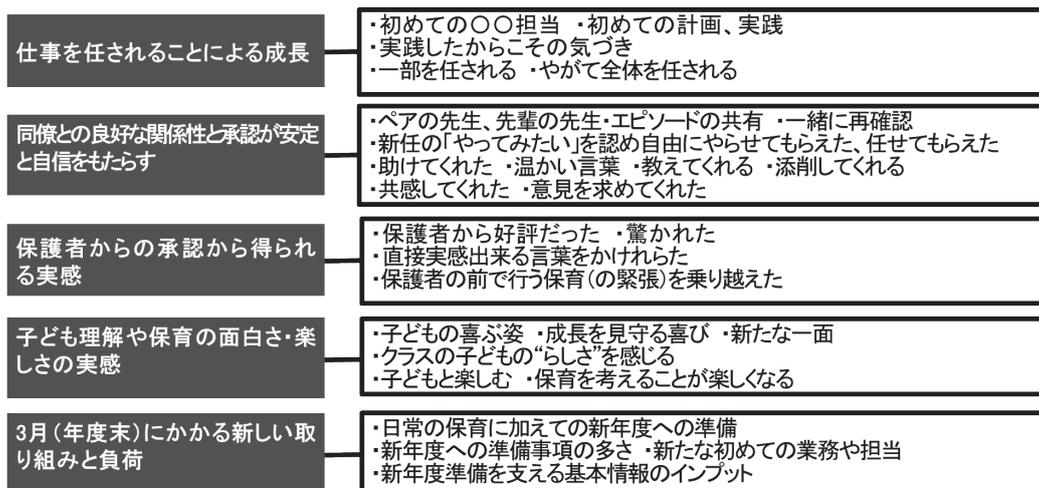


図7 初任保育者にとって年度後期に直面する“拠りどころ”と“負荷”の要点

⑥その他①～職務内容の理解・習得を通して気づく先人の思い・工夫、保育理念～
 その他として、職務内容の理解・習得内容に注目したい。理解・習得した内容は、関わった仕事の直接的な理解だけでなく、例えば、教える者が意識していな

いコツを得たり、その背景にある先人たちの思いや工夫について思いを巡らせたりしている。その結果、保育の本質と関わることに気づいたり、園の保育理念について実感を伴って理解したりしていたことが明らかになった(表8)。

表8 その他①～職務内容の理解・習得を通して気づく先人の思い・工夫、保育理念～

初めて任される仕事を通して習得していること	
(12月)初めて、クラスだよりの一部を書くことになり、どう書いていいものかわからなかったが、一緒に組んでいる先輩の先生が、書き方について教えてくださったり、考えた文章を丁寧に添削して下さったりしていただいたため、悩みながらも書くことが出来、配信することが出来た。…略…また、クラスだよりに書くおそひのこと、何を書いていいのかわからないもの、グループ園の指導計画を参考にしながらかくと良いのだと知ることが出来た。また、文章を書くコツとして、文末が同じにならないようにすると入ってきやすいということも知ることが出来、クラスだよりは、保育者の工夫や思いがたくさん詰まっているのだと感じた。(保育者B)	
3月号分はコラムを含めて、丸々1枚書かせていただくことになった。初めてのコラム欄に、何を書いていいのかわからない、何を参考にしながら書くのがいいのかわからない、コラムを書くことの難しさを感じた。また、節分やひな祭りといった行事に向けての製作物を考えるうえで、先輩の先生の工夫を知ることが出来たり、「やりたい」という思いも必要だが、発達に合わせて考えることの大切さを学んだりすることが出来た。(保育者B)	
行事の参加を通して習得していること	
とんど祭りに参加し、とんどの由来や日本の伝統行事について知ることが出来た。また、地域の協力があつたり、そのようなことが出来る地域だからこそ、とんどをすることが出来たりするのだと感じた。行事を通して、地域との密着性の大切さや、法人グループの保育理念でもある、地域にも理解がある保育をということも強く感じる事が出来た。(保育者B)	

⑦その他②～仕事を覚えることへの示唆～
 最後に、保育者A・Bの「仕事を覚える」ということに関する自由記述から得られた示唆を紹介したい(表9)。
 保育者Aの記述からは「仕事を覚える＝仕事ができる」という構図でなく、まずは「仕事を知る」からはじめ、その次に「仕事を覚える」そして、「仕事ができる」という段階に到達する考え方が適切であると理解していた。初任者を支える同僚から「仕事ができるようになった…」という褒めではなく、「毎日来るのが仕事」「慣れるのはゆっくりでいいよ」「一緒に頑張ろう」といった言葉や、ありのままの姿を認めながら

頑張れる言葉をもらう励ましのほうが、自身の保育に対する気づきを得ていた。
 保育者Bの記述からは、9月からの後半期においては少し余裕ができた頃に新たな仕事や行事に関する仕事提示されて、新たな大変さを感じていたことが窺えた。一方、ペアを組んでいる先輩保育者の自分に対するこれまでの仕事配分に、配慮があったことに気づいている。Bの園では、年度末には次年度からの新規採用者が研修として園に来ているため、早くに“初任者”を卒業してほしい、一年間の成果を求められる様子が見えてきた。

表9 “仕事を覚えるということ”に関する記述

<p>就職するまでは、「1日でも早く仕事を覚えたい」と思っていたし、就職してしばらく経っても、「仕事は覚えるものだと思っていた」。しかし、1年目の途中で自然と自分の中で「仕事を覚える＝仕事ができる」になっていることに気がきました。…略…</p> <p>「覚える」と「知る」とでは「知る」ことのハードルの方がはるかに低い。「実際は「仕事を知る→仕事を覚える→仕事ができる」だと「これから頑張ろう」という気持ちを持って入ってくる1年目の保育士にあえて「仕事を覚える」の部分を選んで伝える必要はないのではないかと思っています。…略…(保育者A)</p>
<p>4月は毎朝緊張しながら仕事に行き、「何したらいいんだろう」ってふらふらしてたけど、「元気に来るのが仕事じゃけーね！」「慣れるのはゆっくりでいいよ」「みんなで頑張ろう」「一緒に頑張ろう」って言ってくれる優しい先生に囲まれて、気づけばもう1年目が終わってしまいました。</p> <p>私の大好きな先輩先生に「何年もやれば経験は積んでいくじゃけどね、なんかがむしゃらさはなくなるんよね。「新人の頃なんてがむしゃらにできるのがよきなんよ。」」1年目からおばちゃんたちと同じ仕事ができたら困るよ〜！」「それぞれの場所でそれぞれが「一杯がんばればよし！」「てか、楽しければよし！」って言葉を掛けてもらっていました。いろんな人がいて、いろんな保育があって、子どもを真ん中に保育園は回っていきんだと思います。 (保育者A)</p>
<p>はじめは、仕事を覚えることについて「いっばいいっばいだった」が、覚えて、それが出来るようになってくると、余裕をもって出来るようになってきていたように感じる。しかし、「仕事を覚え、余裕をもって出来るようになった頃に、また、新たな仕事や行事について考えたり、覚えたりすることが出てきて、仕事の大変さを感じることも多くあった。」それでも、「一緒に組んでいる先輩の先生が、自分のペースを考えながら、仕事を振ってくださったからこそ、無理なくすることが出来た」ように思える。(保育者B)</p>
<p>グループでの研修でも、1年目を代表として、新採用者の皆さんの前で話させていただいたが、「自分のことを気にかけ、支えてくださる人がいること、心配してくださる人が、必ずいるということ」。それは、職場の先生に関わらず、家族、友人など、様々であるということも伝えた。こうして、2年目を迎えることが出来たのも、それらの人の存在が大きいので、感謝を忘れずに過ごしていきたいと思う。(保育者B)</p>

IV. まとめ

調査した76項目のうち、保育者Aは52項目を、保育者Bは53項目を1年間で理解・習得していたが、2年目に持ち越された項目が20項目を超えることがわかった。後半期には、1年間で理解・習得した職務内容のおよそ半分を9月から12月に理解・習得しており、特に保育者Aは、9月・10月・3月に集中していた。9月、10月は園行事が多く開催される時期、3月は年度末と新年度の準備の時期であり、こうした状況の中で理解・習得する職務内容が増えている実態が理解できた。また、理解・習得方法の結果から、職務のすべてを園から教えてもらっているわけではなく、自分から質問し、場合によっては見て理解していることもあり、初任保育者のコミュニケーション能力が問われる状況も把握できた。

計量テキスト分析ソフトのフリーウェアKHCorder「共起ネットワーク」(最小出現回数を3、絞り込みの描画数60)による分析の結果から再検討した結果、①初めて任される仕事 ②同僚との関係性と同僚からの承認 ③保護者からの承認 ④子ども理解や保育の面白さ・楽しさの実感 ⑤新しい取組と負荷というまとまりが浮かび上がった。また、共起ネットワークのまとまりを総合して考察すると、仕事を覚えるということに関する項目があることが窺えた。

保育者Aの記述からは「仕事を覚える＝仕事ができる」という構図でなく、見て学ぶのか教えてもらうのか、いずれかの方法でまずは「仕事を知る」からはじめ、その次に「仕事を覚える」そして、「仕事ができる」という段階に到達する考え方が適切であると理解していた。更に加えるならば、「一部をさせてもらう」

「できることが確認されれば明かされる仕事が増していく」「すべて任されるようになる」、そうした経過を辿って「仕事を覚える」域に達していくことが、自由記述から伝わってきた。本研究の調査では、76項目に対して「いつ」「どのような方法で」教えていただいたかを、記入する調査用紙であったが、初任保育者にとって、自身の成長を振り返り、励ましとなる用紙にするために、スモールステップを提示する項目建てが必要であると考えた。

保育者Bの記述からは、9月からの後半期においては少し余裕ができた頃に新たな仕事や行事に関する仕事が提示されて、新たな大変さを感じていたことが窺えた。一方、ペアを組んでいる先輩保育者の自分に対するこれまでの仕事配分に、配慮があったことに気づいていた。この気づきが“初任者が同僚との良好な関係を築ける”ヒントであり、自分が先輩になったときに重要な視点と思われる。その一方で、保育者Bの園では、すでに年度末には次年度からの新規採用者が研修として園に来ているため、早くに“初任者”を卒業してほしい、一年間の成果を求められる様子が見えてきた。初任者を迎える時期や頻度、組織の構成員によっても職務の理解・習得を求められるペースが異なるであろう。

一年間で理解・習得できなかった職務内容は、両者共に20項目を超え、2年目に持ち越される状況にあった。多くの保育施設では、3月になれば次年度の初任保育者の就職前研修が始まり、否応なくサポート体制は初任者へのサポートに切り替わるが、理解・習得できていない職務内容に対して、不必要な項目だったのかどうかも含めて検討し、必要であれば、引き続きチェックシートで確認していくことが求められよう。

今後は、本研究結果をもとにチェックシートを精査し、仕事を覚えた事実を追うだけでなく、成長を振り返ることができる要素も加えたシートの開発に繋げ、初任保育者の初年度支援の一助としたい。

謝辞

本調査研究に際し、多大なご協力をいただいた保育所並びに保育士の先生方に対しまして、心より感謝申し上げます。

引用文献

1. 岡本和恵, 卜田真一郎, 松井玲子, 北野圭子. (2010) 本学卒業生の幼稚園・保育所等における早期離職の現状と課題—平成19・20年度卒業生を対象として. 常磐会短期大学紀要, 39: 19-39
2. 上田厚作, 松本昌治. (2015) 新任保育者の早期離職を防ぐために保育者養成校に求められる就職支援活動—離職率・離職原因等に関する追跡調査結果を受けて. 越谷保育専門学校研究紀要, 4: 29-34
3. 保育の現場・職業の魅力向上検討会. (2020年8月24日) 第5回参考資料 (1) 保育士の現状と主な取組: 23
4. 横山博之, 重松由佳子, 増渕千保美, 柴田賢一. (2016) 保育者の早期離職における課題—保育者の確保と保育の質の向上を求めて. 次世代育成研究 見やらい, 13: 29-51
5. 木曾陽子. (2018) 保育者の早期離職に関する研究の動向—早期離職の実態、要因、防止策に着目して—. 社会問題研究, 67: 11-22
- 6・7. 矢野光恵, 橋本信子. (2023) 初任保育者が感じる着任初期の多忙感・負担感に関する一考察. 児童教育研究, 32: 115-123
8. 小澤拓大, 野坂敬 (2015) 初任保育者の保育現場への適応に向けて—保育現場と保育者養成校の包括的協働についての提言—. 宮崎学園短期大学紀要, Vol.8: 16-24

[2023. 10. 3 受理]

コントリビューター：藤原 逸樹 教授
(保育科)